兵庫県病院協会

会

報

● 発行 ● 兵庫県病院協会 〒651-0086 神戸市中央区磯上通 6丁目1番11号 兵庫県医師会館7F TEL (078) 251-3030 FAX (078) 251-3011 会報編集委員会

印刷 株式会社 七旺社

謹賀新年

平成 25年 元旦



目 次

一卷頭言一		
今年もよろしくお願いします 兵庫県病院協会会長 医療法人敬愛会本部参与・神戸赤十字病院顧問	守殿	貞夫 3
一随筆一		
言葉について		
兵庫県病院協会常任理事 医療法人康雄会西病院・理事長	西	昂 4
団塊の世代の高齢化と地域医療体制		
兵庫県病院協会理事 地方独立行政法人加古川市民病院機構・理事長	宇高	功 5
一謹賀新年一		
兵庫県病院協会役員一同 ······	•••••	6
= 会員病院紹介 =		
多可赤十字病院・院長 松浦 尊麿	• • • • • • • • •	7
医療法人社団さくら会 高橋病院・院長 高橋 玲比古	•••••	9
= 事務局短信 =		
平成24年度第2回病院管理職員等研修会報告 ·····	•••••	11
平成24年年末特別講演会・懇親会報告	•••••	11
= 編集後記 =		
兵庫県病院協会常任理事・会報編集委員長		
兵庫県立こども病院・院長 丸尾 猛	• • • • • • • • •	12



まれており、初詣時期にはもちろん、縁結びの神られています。地元では「生田さん」として親しこれが「神戸」という地名の語源となったと伝えつて、現在の神戸市中央区の一帯が社領であり、 と申されたので、海上五十狭茅という者を神主と日女尊が現れられ、「私は活田長狭国に居りたい」が進まなくなったために神占を行ったところ、稚 神功皇后以来の歴史を有する、す。同じ兵庫県内の廣田神社、生田神社は、兵庫県神戸市中 して祀られたと伝えられます。 様としても知られています。 神功皇后が外征の帰途、今の神戸港にており建は西暦二〇一年と日本書紀に記されてい 襲、一九九五年の阪神・淡路大震災な一九三八年の神戸大水害、一九四五年と伝えられる。 市中央区にある神社で

船 ま 古い神社です。

長田神社とともに

街地に位置するこれとして、近年はれとして、近年はずる古のをする古のを拝も 街地に こから訪れる名は地に位置するので、神戸中心

どたびたび災害等の被害に遭いましたが、その

7 うの

社 神

〈表紙の写真〉

生田神

巻頭言

今年もよろしく お願いします



兵庫県病院協会 会長 医療法人敬愛会本部参与 神戸赤十字病院顧問 守殿 貞夫

本紙が発行される年明けには衆議院選挙が済み、我が国の舵取り役が決まっていることでしょう。結果は、皆様の予想どおりでしたか。

今年の干支の巳年(みどし)は俗に蛇、昔から 巳年に生まれた子供は福をもたらすと言われてい るそうです。巳年は景気が少しは良くなるとも伝 えられており、これに新政権の斬新な政策・政治 も相まって景気が良くなって行けばと思います。 しかし、一方で荒れる巳年といわれるような世相、 事件がおこった年でもあります。1929年(昭和4 年)の世界恐慌、1941年(昭和16年)の日米開戦、 1953年(昭和28年)のスターリン暴落、1965年(昭 和40年)の日銀の山一證券特別融資、1977年(昭 和52年)の第一次石油ショック、1989年(平成元 年)の昭和天皇崩御、2001年(平成13年)のアメ リカ貿易センタービルテロ攻撃などです。今年、 世界最大の大恐慌が起きない事を祈るのみです。

昨年末の6病協主催の年末特別講演会では、 キャノングローバル戦略研究所研究主幹松山幸弘 先生が「日本社会・経済の再生に資する医療改革 〜兵庫県に世界標準の地域医療提供体制を創る方 策〜」と題して、日本の医療の不都合な現状、地 域医療の崩壊はガバナンスの欠如、医療産業の集 積・一括運用並びに地域包括ケア(急性期から介 護まで)の必要性、最後に前記方策を講じなけれ ば兵庫県の医療費はこのままでは2025年ごろに頭 打ちになりますよとのご意見を頂いた。松山講師 は最後のまとめとして、世界標準の医療事業体を 創るには、利益が特定の個人に帰属しない非営利 事業体を創り、人口100万人レベルの医療圏に急 性期から外来、介護、在宅に至る地域住民が必要 とする医療サービスを、フルセットで提供する体 制作りが重要と話された。

さて、政府が描いている将来の医療・介護サー ビスの需要と供給のシミュレーション: その基本 理念は「施設」から「地域」へ・「医療」から「介 護」へである。すなわち、高度急性期病院群から 一般急性期、亜急性期・回復期等、長期療養(医 療療養)、介護施設、居住系・在宅介護と、医療・ 介護密度別にタワーの如く配置し、上流の急性期 群を減床、居住系・在宅介護を増加させることで ある。急性期の医療施設群から亜急性期・回復期 等への短期間内の転送、亜急性期・回復期等から 療養型を飛び越しての居住系・在宅介護への転送 も盛り込められている。これら政府の医療、療養、 介護の政策の計画・変容にいちいち対応して我々 が医療施設を個々に整備することは資金面をはじ め不可能なことである。これには、地域単位で松 山講師が言われた医療サービスをフルセットで提 供する大きな非営利事業体を創るのも一理である が、取り敢えず即応する形で各種医療機関・介護 施設間で、今までとは異なる人的交流も含めた経 営一体化を視野に置いた連携ができれば可能かも しれない。あるいは、手っ取り早く一法人敷地内 に自前で各施設を整えられるのも一方である。

今年は、第62回伊勢神宮遷宮の目出度い年で、 東から西へ遷られます。皆様にとりましても、良 い年になりますよう祈念致しております。



随筆

言葉について



最近、言葉について疑問に思う出来事が多々ある。 一昔前から、「食べれます。」という『ら抜き言 葉』や、「読まさせて頂きます。」という『さ入れ 言葉』という誤った言葉の使い方が指摘されてき たが、最近では『ファミコン言葉』という誤った 日本語が存在するのをご存じだろうか。これは、 ファミレスやコンビニエンスストアで使用される マニュアル敬語を指す。具体的には「商品はこち らの方でよろしかったでしょうか?」や「1万円 からお預かりします。」などである。大変違和感 を覚える表現であるが、実際に買い物をする時に などに頻繁に耳にする。先日も「こちらの方は、 お熨斗紙という形でよろしかったでしょうか。」 と言われ、驚いたばかりである。あたかも敬語を 使っているようであるが間違った日本語である。 このようなマニュアル敬語が今はファミレス、コ ンビニに留まらず、大手百貨店や一流ホテルでも 聞かれる場合がある。違和感を感じながらも日常 で頻繁に使われているのである。それは、私たち の医療業界においても同じである。「お熱の方は いかがですか?」など本人は丁寧な表現をしてい るつもりでも間違った日本語で話している場合が ある。聞き手にとって『ファミコン言葉』は耳障 りであるケースも多い。こういった、無意識下で の間違った言葉の使い方については、気付いたら やめる、周りが積極的に指摘することで改善して いくケースが多いそうだ。

ところが、過日、民主党の野田前総理が述べた

「近いうちに解散する」という言葉はどうだろうか。周知の通り、日本語は曖昧な言語だと言われている。そもそも、特に反対意見を断定的に述べることが美徳ではないという日本の文化や国民性が、日本語を曖昧な言語にしていったのかもしれない。とはいえ、そういった曖昧さを「利用」した政策は如何なものかと感じる。私が知る限り「近いうちに」とは数日、長くても数週間内に実行すべきことを指すと考えていたが、100日後に国会で喧嘩別れのような形で「近いうちに」を実現した。明言を避けることが、相手を気遣った言動である場合は美徳であるかもしれないが、急場しのぎの、まるでお茶を濁すような表現は美徳ではない。明言すべき立場の人が明言しないのは、曖昧さを利用した「逃げ」のようにも感じる。

3年前、民主党がマニフェストでいくつもの政策を掲げていたが、この中のいくつが実行されたのだろうか。そう考えると、発した「言葉」に責任を持つ時代ではなくなっているのか。12政党から立候補した政治家や各政党の「言葉」は信頼に足りうるのかいささか疑問である。信じられない政治、また、信じない政治は日本国民にとって不幸なことである。次の世代に信じられる政治が行われる日本国になることを私は信じてやまない。

言葉は時代によって変化していくものである。 そいういう意味では、ある程度は新しい言葉や表 現を受け入れる柔軟性も必要かもしれない。しか し、自分勝手な理由で言葉を利用・乱用しないよ うにする心がけが必要であると考える。

団塊の世代の高齢化と 地域医療体制



兵庫県病院協会 理事 地方独立行政法人 加古川市民病院機構 理事長 宇高 功

日本では、これまで世界が経験したことのないスピードで、高齢化が進んでいるといわれている。この急速な高齢化の最大の原因は、団塊の世代の高齢化である。日本において、第2次世界大戦直後の第1次ベビーブームの世代である。戦後の日本の歩み、特に経済成長をともにしており、また、その突出した人口構成ゆえに、良くも悪しくも日本の社会のありように多大な影響を及ぼしている世代である。

団塊の世代は、具体的には、昭和22年から24年(1947年~49年)生まれの世代で、あわせて実に800万人もの巨大な人口集団の塊である。2015年には、65歳以上の仲間入りをして、2025年には、後期高齢者となる。(実は、筆者もベビーブーマー第1弾組である。)2030年を過ぎると、後期高齢者はゆっくりだが、減少し始める。背景には、団塊の世代が75歳を超え、その後の75歳への流入が緩やかになる一方で、死亡者数が急激に増え始めるからである。2020年から2030年にかけ、年間死亡者数は現在の120万人から160万人に増えると予想され、多死時代を迎える。

一方、少子化も着実に進んでおり、人口構成が 逆ピラミッド型となっている。2004年に総人口 1億2,800万人が、2046年(33年後)には、9,900 万人と1億人を下回る。

この変化に伴って、医療・介護ニーズもダイナミックに変化していくことになり、国は社会保障と税の一体改革大綱で、2025年を目指した医療のあり方を提示している。

高齢者人口の急速な増加は、日本中一律ではなく、特に、都市部の問題である。地方では、むしろ高齢者人口が減少傾向となるところもある。地域ごとに人口の年齢構成から人口動態をしっかり

と予測し、医療・介護体制の構築に努めなければ ならない。

一方、延命治療など医療のあり方も、国民的コンセンサスなどで変化していくことも予想される。実際、単なる延命のための胃ろうは、最近、急速に実施率が低下している。国の指針にあるように、在宅医療、在宅看取りも増えていくと思われる。

加古川市においては、地域医療の再生とともに、 今後の医療・介護体制の基幹となるため、病院を 再編して新病院を建設するとともに、地元医師会 等とともに、地域完結型医療のあるべき姿の議論 を進めている。

ちなみに、加古川においては、ここ20年の間に、 人口は、-6.2%、老年人口は、+49.3%、小児人 口は、-37.9%で、がん、脳血管、循環器、消化 器疾患は、 $30 \sim 70\%$ 増えること等が予測される。

高齢者医療のあり方を考えれば、高度急性期医療が急増することはあまり考えられず、在宅医療を支援する地域密着型2次救急機能の病院のニーズや高齢者に増加する認知症対応へのニーズの高まることが予想され、地域の病院としては、そのニーズにしっかりと応えていくことが必要だと考えている。

国の指針にあるような医療機関の役割分担や、 救急車や急病センターへの不必要な利用など無駄 な医療費の使い方を慎むよう、地域住民に啓発し ていくことも大切なことであり、この活動も進め ていきたい。

地域全体で地域住民の健康情報を共有して、地域の医療関係者みんなで医療・介護の面から、地域住民の健康を守る時代かと思われる。そのために、ICTがおそらく大きな役割を担うと考えられるので、地域医療関係者すべて一緒にICTによる地域医療・介護連携体制整備に努めていきたいと願っている。加古川では、地域医療情報システムについて、すでに、運用実績があり、また、近年、医師会主催で、プライマリケア学会地方会を成功させた実績があるので、整備しやすい環境にあると期待している。

団塊世代の私自身が高齢者になる今、地域の住 民の方々、我々団塊世代のために、安心して老後 を過ごせる体制作りに少しでも貢献できればと考 えているこの頃である。

島津 敬((社)日本海員掖済会

井口 哲弘(兵庫県立リハビリテー

神戸掖済会病院長)

ション中央病院長)

謹賀新年

本年も宜しくお願い申し上げます。

平成 25 年元旦 兵庫県病院協会役員一同 (順不同)

슾		長	守殿	貞夫	(神戸赤十字病院顧問)	"		片山	和明	((財) 神戸市地域医療振
副	슾	長	大洞	慶郎	(西脇市立西脇病院長)					興財団 西神戸医療セン
	"		公文	康	(医療法人社団康人会					ター院長)
					適寿リハビリテーショ	"		橋本	創	(医療法人旭会 園田病
					ン病院会長)					院長)
	"		藤原	久義	(兵庫県立尼崎病院長兼	"		大村	武久	(医療法人社団甲友会 西
					塚口病院長)					宮協立脳神経外科病院
常有	壬珪	事	松浦	梅春	(医療法人松浦会 姫路					理事長)
					第一病院理事長・名誉	"		金山	良雄	(市立芦屋病院長)
					院長)	"		澤井	繁明	(医療法人社団 明石医
	"		吉田	耕造	(医療法人榮昌会 吉田					療センター理事長)
					病院理事長)	"		宇高	功	(地方独立行政法人 加古
	"		西	昂	(医療法人康雄会 西病					川市民病院機構理事長)
					院理事長)	"		石川	誠	(医療法人仁寿会 石川
	"		吉田	靜雄	(医療法人中央会 尼崎					病院理事長)
					中央病院理事長)	"		湯浅	志郎	(姫路赤十字病院長)
	"		丸尾	猛	(兵庫県立こども病院長)	"		井上	喜通	(医療法人社団緑風会
	"		石原	亨介	(地方独立行政法人 神					龍野中央病院理事長・
					戸市民病院機構神戸市					院長)
					立医療センター西市民病	"		實光	章	(赤穂市民病院長)
					院長)	"		宮野	陽介	(公立八鹿病院長)
理		事	北	徹	(地方独立行政法人 神	"		足立	確郎	(兵庫県立柏原病院長)
					戸市民病院機構神戸市	"		加堂	哲治	(兵庫県立淡路病院長)
					立医療センター中央市	監	事	森村	安史	(医療法人樹光会 大村
					民病院長)					病院理事長)
"		市原紀久雄			"		曲渕	達雄	(公立豊岡病院組合立	
					事長)					豊岡病院長)
	"		西尾	晃	((社) 全国社会保険協会					
					連合会 社会保険神戸					BOSTON STORY
					中央病院長)					4
			F 1-F-	44.7	// x [)					Marie Control



三会員病院紹介 三

多可赤十字病院



当院は、兵庫県の中央部に位置する5市1町からなる北播磨医療圏の最北部、多可町に位置しています。戦時中に、日本赤十字社の兵庫県支部が多可郡中町に疎開した縁もあり、地域住民の強い要望で中町(平成17年町村合併により、現在は多可町)に、柏原赤十字病院の分院として、昭和20年11月に開設されました。

多可町内では唯一の病院であることから、開設 以来、町内の中心的な医療施設として、地域医療 に貢献しています。

昭和62年には、老人保健施設モデル事業の指定を受け、翌年4月には全国に先駆けて老人保健施設を開設し、続けて、訪問看護ステーションや居宅介護支援事業所などを順次設置するなど、早期から、維持期や在宅における医療・ケアの提供に努めてきました。

また、東日本大震災や、新潟県中越地震、兵庫県台風23号、阪神淡路大震災の発災時には、救護班を被災地に派遣するなど、赤十字病院の使命である災害救護活動に努めています。

今日、地方における住民の高齢化が社会的問題として顕在化していますが、多可町においても高

齢化率は高く、独居世帯や老夫婦世帯も増加しています。当院の受診者にも高齢者が多く、また受診者の中には、病気の苦しみだけでなく、心身障がいや療養生活そのものに支障をきたしている方もおられます。

このような地域の社会的状況を考慮して、平成24年度から、「老後に至るまで住みなれた居宅・地域で安心して住み続けることができる」地域づくりに貢献すべく地域に密着した病院として、改めて病院の基本的な位置づけや方向性を見直し、包括的医療・ケアの提供など、新たな取り組みを開始しています。

平成24年度より、総合診療科を開設するととも に、総合診療科と一体的に機能する地域医療支援 センターを立ち上げました。

総合診療科では、複合的な疾患を抱えた患者様の診療や、在宅医療の充実に重きを置き、通院が困難な方については、訪問診察も始めました。

地域医療支援センターは、地域医療連携課、訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所、在宅介護支援センターの機能を一部門に集約し、医師、看護師、保健師、社会福祉士、薬剤師、リハビリテーション職員、栄養士、ケアマネージャーらが協働して、医療や介護、さらに生活面に関する相談も含めてワンストップで支援する体制をとっています。

在宅療養支援を強化するために、町内診療所と 共同して在宅療養支援病院の指定を受け、地域医 療支援センターが窓口となって、24時間体制での 入院受け入れや、緊急時の往診にも対応すること としました。

ところで、北播磨医療圏域では、今年度より、病病連携・病診連携を推進するため、「北はりま 絆ネット(ID-Link)」の運用が始まりました。 当院も、情報閲覧施設として参加していますが、 来年度には情報公開病院として参画する予定で す。さらに、町内の診療所や介護施設等とも共同 利用できるICTシステムの構築を検討しています。 また、多可町においては、医療施設、介護事業 所、高齢者福祉施設、障がい者福祉施設、社会福 祉協議会、行政などの専門職が定期的に集い、地 域ぐるみで地域ケア課題の解決に向けた話し合い を始めました。

一体的に医療・ケアを提供する体制を整え、急性期から回復期、在宅復帰、さらには終末期に至るまで、住民を支えきることができるまちづくりに貢献していく所存です。

----- 病院の理念 -----

赤十字の諸原則にのっとり、人道・博愛の実践 に努めます。

----- 行動の指針 ---

- 1. 私達は、赤十字人としての責任を果たします。
- 2. 私達は、地域社会に信頼される医療活動を展開します。
- 3. 私達は、生命の尊厳を守り、良質の医療を提供するため、自己研鑽に努めます。

----- 病院の概要 ---

開設日:昭和20年11月20日

名 称:多可赤十字病院

所在地: 〒679-1114

兵庫県多可郡多可町中区岸上280番地

電 話:0795-32-1223

FAX: 0795-32-0652

U R L: http://www.taka.jrc.or.jp

E-mail: hospital@taka.jrc.or.jp

院 長:松浦尊麿

診療科目:内科・外科・整形外科・眼科・産婦人

科・小児科・リハビリテーション科・

脳神経外科・皮膚科・放射線科・麻酔

科(全11科)

許可病床数:一般病床110床

稼動病床:一般病床80床(うち回復期リハビリテーション病床30床)

---- 病院の特色-

救急告示病院

回復期リハビリテーション病棟

人工透析

人間ドック・生活習慣病予防検診

特定健康診査・特定保健指導

婦人検診(乳がん・子宮がん施設検診)

訪問診察

付带事業:多可赤十字老人保健施設

(入所定員82名、通所定員18名)

多可赤十字訪問看護ステーション

多可赤十字指定居宅介護支援事業所

多可町中在宅介護支援センター(多可町より受託)

── 病院の沿革 ──

昭和20年11月 柏原赤十字病院中町分院として多

可郡中町中村町に開設

昭和23年12月 中町赤十字病院として独立

昭和50年10月 多可郡中町岸上に新築移転し、診 療再開

昭和62年4月 老人保健施設モデル事業の指定を

受ける(入所定員22人)

平成5年4月 老人保健施設を新築移転

(入所定員82人)

平成6年12月 在宅介護支援センターを開設

平成11年4月 中町赤十字訪問看護ステーション

を開設

平成11年9月 中町赤十字居宅介護支援事業所を

開設

平成13年2月 人工透析開始

平成21年6月 回復期リハビリテーション病棟を

設置

平成22年10月 多可赤十字病院に名称を変更



老人保健施設



訪問診察風景

医療法人社団さくら会

高橋病院



◆当院の概要

当院は兵庫県神戸市須磨区にある病床数112床の急性期病院です。診療科は、外科、内科、循環器内科、心臓血管外科、整形外科です。これらの診療科のうち循環器疾患、特に虚血性心疾患の診断治療に特に力を入れております。循環器科の常勤医師は6名と少ない人数ではありますがチームワークは非常に良好です。病院の設備としまして、8床のCCUの他、カテ室2室、手術室1室、1.5テスラMRI、64列CT、SPECTなどがあります。また循環器治療の機器としては人工心肺装置、大動脈バルーンパンピング装置や経皮的心肺補助装置などがあります。このような体制で年間150例前後の急性心筋梗塞の患者を含む循環器の患者様に対応しております。

◆循環器診療への取り組み

当院の病院自体の開設は昭和45年です。平成7年の阪神淡路大震災の際、病院の改修工事を行いました。その際に、心臓カテーテルのためのシネアンギオ装置や人工心肺装置を導入して循環器疾患の診療を新しく始めました。徐々にカテーテルや心臓手術数は増加し、平成15年にはカテーテル手術が年間400例になりました。急性心筋梗塞の

患者さんも増加し、一晩に2回も3回も緊急PCIをすることも稀ではなくなってきました。さらにそれに伴って開心術も増え、その数は60例を越えるようになりました。

◆病院の新築移転

この頃から建物の老朽化が目立つようになり、 平成16年に現在の須磨区に新築移転いたしまし た。移転後からさらに患者数は増え、カテーテル の治療実績は翌年には640例と増加いたしました。 少ないスタッフでこれだけの症例に対応するには 大変な面もありますが、逆に一人当たりの症例数 が多く、若い医師が短期間で研修の実を上げるこ とが可能です。また2003年からは5年間CCTと いうライブデモンストレーションを主体とした循 環器の学会で、当院より心拍動下冠動脈バイパス 術のライブデモンストレーションを行いました。 全国から錚々たるオペレーターが当院に来て患者 さんの手術をされました。最近、諸事情で外科手 術のライブは縮小傾向になりましたが、当時は最 新の術式を学ぶためにたくさんの若い心臓血管外 科医が参加していました。当院もライブ中継施設 として微力ながらもこの領域の発展ができたので はないかと思っております。またこれがきっかけ となり、平成16年にはイタリアのトリノ大学心臓 血管外科のカラフィオーレ教授が当院で心拍動下 冠動脈バイパス術をされました。これが後日、日 本の医師免許がなかったということで一時、問題 になり行政当局の方々にも大変なご迷惑とご心配 をおかけいたしました。昨年は当院の患者さんが、 京都府立医科大学循環器内科学教室で自己心筋を 培養して移植するという新しい方法の心筋再生治 療を受けられました。この方は急性心筋梗塞を起 こされ当院に救急搬入された70才台の男性でし た。世界初の治療と言う事で当院にも多数のマス コミの方が取材に来られました。その後、再生医 療のチームと心臓血管外科チームの連携により、 見違えるほどお元気になって当院に帰って来られ ました。この間の治療の様子はテレビでも放送さ れ、当院の待合室では大反響を巻き起こしました。

◆研究活動

カテーテル治療あるいは開心術症例の蓄積によ りいろいろな学会での発表が可能になってまいり ました。最初のうちは症例報告が中心でしたが、 そのうちにまとまった症例数での発表もできるよ うになってきました。そのひとつはエリスロポエ チンのステント再狭窄に対する大学関連病院多施 設共同研究がありました。その結果は昨年の日本 循環器学会のLate Breaking Clinical Trialの演題 として採択され、当院の谷口医師が口演しました。 また、当院では過去、40例以上の左主幹部急性心 筋梗塞に対してカテーテル治療を行っており、米 国心臓病学会で湘南鎌倉総合病院と共同でその成 果を発表することができました。経皮的心肺補助 装置については200例以上の臨床経験があり、さ まざまな国際学会で発表してきました。国内多施 設と共同でカテーテル治療に関するいくつかの医 師主導型臨床試験にも参画いたしました。ブリガ ムウィメンズ病院と日米共同で冠動脈の三次元構 造から計算される冠動脈内のずり応力の分布とア テローマの再発との関連、そしてそれによる患者 さんの長期成績に及ぼす影響に関する臨床試験に 参加する機会を得ることができました。国内13施 設とともに全体で500例の急性心筋梗塞の患者さ んを登録して急性期、慢性期のデータを収集して これを心筋梗塞再発の防止のための研究に役立て るというものでした。当院では約50例の患者さん を登録することができました。この研究は、急性 期及び9ヶ月の慢性期において、梗塞責任冠動脈 以外の冠動脈を含む全ての血管に対して、造影の みならず血管内超音波検査を行うというかなり ハードルの高いものでした。特に遠隔期の検査の プロトコールは検査とは言え侵襲性の高い手技で ありましたが、幸い事故もなく症例登録を完了す ることができました。またこの研究が契機になっ て当院の循環器科の坂本医師がハーバード大学の コアラボへの留学を果たしました。薬剤開発の臨 床治験にも積極的に取り組んでおります。治験の 世界では、我が国はこれまでは取り組みが遅く、 それがドラッグラグやデバイスラグの原因と言わ れてきました。しかし、最近では規制当局や製薬

メーカーも積極的に全世界同時治験を行うようになってきています。当院でも抗血栓治療、抗不整脈薬などを中心に5種類の循環器領域の第2、3相の世界同時治験に参加しました。患者さんの中には説明すると『人体実験をするつもりか!』と怒り出すご高齢の方もおられましたが、ほとんどの方は非常に協力的でした。

◆おわりに

多くの中小急性期病院がそうであるように、当院も少ない人数で毎日多数の患者さんの心臓治療を行っております。多忙を極める日常臨床に加え臨床研究、臨床治験を行うことは大変な労力を伴いますが、このような取り組みを通じて少しでも広く社会に役立つことができればと思っております。今後とも皆様のご指導ご鞭撻の程、何卒宜しくお願い申し上げます。



CT 室



カテーテル室

=事務局短信=

平成24年度第2回病院管理職員等研修会報告

平成24年度第2回病院管理職員等研修会が次の とおり開催された。

時 平成24年11月16日(金)

 $14:00 \sim 16:00$

- 所 兵庫県医師会館2階大会議室 (神戸市中央区)
- ・テーマ 「在宅療養移行支援を体系化(見える 化)しよう~どう生きたいかに寄り 添う~」
- 師 在宅ケア移行支援研究所 代表 宇都宮 宏子氏
- · 参 加 者 53病院94名
- ・概

在宅ケア移行支援研究所代表宇都宮宏子氏を 講師としてお招きし、守殿会長の開催挨拶に続 き、公文副会長が座長を務め進行した。

講演の概要は、退院支援・退院調整のプロセ スは「医療と看護、生活療養」の両面から患者 を総合的にマネジメントすること、そして患者 の生きてきた暮らし、家族、社会との関係性を

踏まえて「病気や障害・老いを持ってどう生き るか」を患者・家族共に組み立てる看護活動そ のものである。

退院支援と退院調整を理解し、3段階のプロセ スにより、病棟・退院調整部門、そして地域と の早期の協働によるシステム構築について、分 かりやすく紹介して頂いた。





開会挨拶 守殿会長

宇都宮宏子氏





座長 公文副会長

会場風景

平成24年年末特別講演会·懇親会報告

平成24年年末特別講演会及び懇親会が、兵庫県病院関係6団体主催により次のとおり開催された。

特別講演会

- 時 平成24年12月6日(木) · 🗄 $15:30 \sim 17:15$
- ・場 所 兵庫県民会館9階「けんみんホール」
- ·参加者 約130名
- ・次第
 - 1 開会挨拶 兵庫県民間病院協会会長 吉田 耕造氏
 - 2 座 長 兵庫県民間病院協会副会長 吉田 靜雄氏
 - 3 講 師 キャノングローバル戦略研究所研究主幹 松山 幸弘氏
 - 4 演 題

「日本社会・経済の再生に資する医療改革 ~兵庫県に世界標準の地域医療提供体制 を創る方策~」

年末懇親会

- · 日 時 平成24年12月6日(木) $17:30 \sim 19:30$
- ・場 所 兵庫県民会館11階「パルテホール」
- ・参加者 約160名
- ・次 第
 - 1 開会挨拶 兵庫県病院協会会長

守殿 貞夫

2 来賓挨拶

兵庫県健康福祉部長 太田 稔明様 神戸市保健福祉局長 雪村新之助様 小澤 孝好様 兵庫県医師会副会長 神戸市医師会会長 本庄 昭 様 神戸大学医学部附属病院長 杉村 和朗様

3 乾 杯

兵庫県病院厚生年金基金 ·

兵庫県病院協同組合理事長 松浦 梅春様

4 閉会挨拶

兵庫県病院協会副会長 藤原 久義



東日本大震災と原発事故に端を発して揺れ動く世情は、閉塞感に包まれたまま年の瀬を迎えようとしている。その折、京都大学山中伸弥教授の2012年ノーベル医学生理学賞受賞は、我が国の沈滞ムードを打ち破り日本全体が大きな喜びに包まれた。神戸大学卒業生の一人としてうれしい限りである。iPS細胞の臨床応用に成功し、難病患者さんに笑顔が広がる日が近いことを祈ってやまない。

一方、妊婦末梢血を用いて胎児のダウン症を調べる出生前診断が、学会の指針策定を待ち始まろうとしている。検査内容の周知と丁寧なカウンセリングが前提であるが、染色体疾患を「残念な結果です」と伝えるならば、新検査はこども達の多様性を保障することにならないとの指摘もあり、国民的議論が求められている。こどもに障害があると分かった際の親の思いを受け止めてのカウンセリングの難しさは想像に難くない。

新春号巻頭言で、守殿会長は政府が描く将来の医療・介護の需要と供給のシミュレーションから、「施設」から「地域」へ、そして「医療」から「介護」へと動く方向性を明示されている。

寄稿文では、西病院の西理事長は、相手の 立場を気遣い断定的に述べるのは美徳ではな いとする日本の文化や国民性が日本語を曖昧 な言語にしているが、明言すべき立場の人が 明言しないのは「逃げ」であり、言葉に責任 を持つことの大切さを語られている。加古川 市民病院機構の宇高理事長からは、団塊世代 の高齢化が進む今、地域全体で住民の健康情 報をICTで共有し、医療・介護の両面から住 民の健康を守ることの必要性を提言されてい る。また、多可赤十字病院の松浦院長は、診 療所と介護施設が共同利用できる「北はりま 絆ネット | ICTシステムによる医療・ケアを 一体とした町づくりを提言されている。さら に、高橋病院の高橋院長は、虚血性心疾患の 診断・治療に力点を置かれ、カテーテル治療 と開心術の大幅増加をバネとした医師主導型 多施設共同臨床試験への取り組みを紹介され ている。

来る年には「初心」に立ち返り、日本再生 へのスタートを共にきりたいと願う。

兵庫県病院協会常任理事・会報編集委員長 丸尾 猛(兵庫県立こども病院・院長)記

兵庫県病院協会ホームページ http://www.hyobyokyo.jp

E-mail

hvobyokyo@bird.ocn.ne.jp

